



重要文化財 和田三造《南風》1907年(明治40) 東京国立近代美術館蔵

出品作家＝黒田清輝＝萩原守衛＝梅原龍三郎＝萬鉄五郎＝岸田劉生＝村山知義＝東郷青児＝古賀春江＝佐伯祐三＝藤田嗣治＝福沢一郎＝三岸好太郎＝北脇昇＝小磯良平＝野田英夫＝斎藤義重＝巖光＝松本竣介＝桂ゆき＝岡本太郎＝浜田知明＝河原温＝山口勝弘＝白髪一雄＝菊畑茂久馬＝中西夏之＝高松次郎＝荒川修作＝オーギュスト・ロダン＝アンリ・ルソー＝アンリ・マティス＝パウル・クレー＝ワシリー・カンディンスキー＝パブロ・ピカソ＝マルク・シャガール＝ほか

20世紀 美術の 冒険者たち

—名作でたどる日本と西洋のアート—

Touring Exhibition of National Museum of Art in FY2023
Adventures of Art
in 20th century
—appreciating Japanese and
Western artworks through Masterpieces

2023 会期
7.22(土) - 9.18(月・祝)
月曜日休館 (祝日の場合は開館)
[8/8(火)-8/20(日)は連続開館]
開館時間 9:30-17:15
(入館は16:45まで)

熊本県立美術館本館
Kumamoto Prefectural Museum of Art

健康にアイデアを
特別協賛
meiji
明治アニマルヘルス株式会社

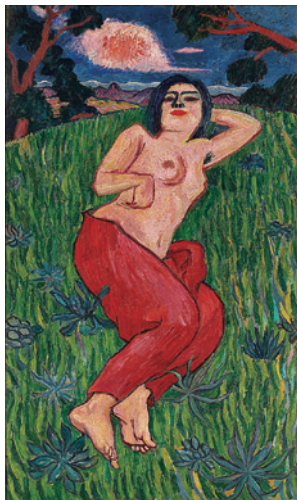
主催：熊本県立美術館(熊本県教育委員会) TKUテレビ熊本 東京国立近代美術館 協力：高松市美術館
後援：熊本県文化協会 熊本県美術家連盟 熊本日日新聞社 J:COM熊本 エフエム熊本 FM791

令和5年度国立美術館巡回展

東京国立近代美術館 × 高松市美術館 × 熊本県立美術館 美術の展開から、アートの萌芽まで

1952年の開館以来、日本の美術界をリードし続ける東京国立近代美術館の洋画・彫刻コレクションによって、20世紀の日本・西洋美術の軌跡をたどる展覧会を開催します。明治以降の日本では、近代化と西洋化による社会の変動とともに、新たな美術表現が開拓されてきました。本展では、美術の普及期である明治時代、個に根ざした表現が重視された大正時代、自由と抑圧がせめぎ合う昭和戦前期、表現の多様性が増す戦後の動向までを概観します。あわせて、日本近代美術の展開を語るうえで欠かせない、西洋のモダンアートもご紹介します。

近代美術から現代アートへの道のりは、既存の様式を疑い、未知の表現へ踏み出そうとする試みの連続でした。その変貌の軌跡は「冒険」にもなぞらえられるでしょう。熊本県立美術館と巡回先の高松市美術館(香川県)の所蔵品をまじえた76点の作品による、近代美術から現代アートにいたる冒険の旅をご覧ください。



観覧料 一般 1,000円(800円)
大学生 800円(600円)
高校生以下無料

※()は前売・20名以上の団体割引料金
※障がい者手帳をお持ちの方無料

前売券:ローソンチケット[Lコード:82441] 熊本市内
大学売店、熊本県立美術館分館、熊本県立劇場など
でお求めいただけます。詳しくはホームページを
ご覧ください。



関連イベント

申込方法等の詳細は、ホームページにて随時お知らせ
します。※イベントは変更・中止となる可能性があります。

■子ども美術館(小中学生向けワークショップ)
8/6 日 10:30-12:00 ▷文化交流室等
定員:8家族程度(要申込) 無料(要観覧券)

■クロストーク
NHK「日曜美術館」の元
司会・姜尚中氏(熊本県立劇場
館長)と三輪健仁氏(東京国立近代
美術館美術課長)を招き、本展か
ら見える近現代美術の特質
に関する対談を行います。
8/20 日 14:00-15:00 ▷吹抜ホール
定員:70名程度(申込不要) 無料



■ミュージアムセミナー
8/19 日 14:00-15:00 ▷文化交流室
講師:山中理彩子(熊本県立美術館 学芸員)
定員:40名程度(申込不要) 無料

■手話通訳付きギャラリートーク
8/12 日 14:00~
申込不要 無料(要観覧券)

■ギャラリートーク
7/29 日、8/26 日、9/9 日
各日 14:00~ 申込不要 無料(要観覧券)

※「熊本地震」の影響により通行規制が行われています。
変動の可能性がありますので、詳しくは当館までご確認ください。



熊本県立美術館本館

Kumamoto Prefectural Museum of Art

〒860-0008 熊本市中央区二の丸2番
TEL 096-352-2111
www.pref.kumamoto.jp/site/museum/



1. 重要文化財 萬鉄五郎《裸体美人》1912年(明治45) 2. 古賀春江《海》1929年(昭和4) 3. ワシリー・カンディンスキー《全体》1940年(昭和15)
4. アンリ・ルソー《第22回アンデパンダン展に参加するよう芸術家達を導く自由の女神》1905-06年(明治38-39) 5. 藤田嗣治《猫》1940年(昭和15)
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 G3201 6. 岡本太郎《夜明け》1948年(昭和23) 1~6. 東京国立近代美術館蔵
7. 中西夏之《コンパクト・オブジェ》1968年(昭和43) 高松市美術館蔵 ©NATSUYUKI NAKANISHI

同時期開催
細川コレクションII 二の丸☆バードウォッチング!
7/19 日 - 10/1 日 ▶別棟展示室
美術館コレクションII
7/15 日 - 9/10 日 ▶第2展示室